絵本フォーラム

子育て支援ネットワーク

2018年9月10日　第120号

[illegible]

発行所　NPO法人「絵本で子育て」センター
芦屋 〒659-0067 芦屋市茶屋之町2-21-405
TEL 0797-38-7516 FAX 0797-38-7939
https://www.ehondekosodate.com/ E-mail info@ehondekosodate.com
郵便振替口座 00900-9-191667

ⓒNPO法人「絵本で子育て」センター2018

まだ暑い日もあるけれど、夜には虫のなく声もきこえるようになりました。
イラスト・文　たさききょうこ

子ども歳時記

自分らしく生きていける社会

舛谷　裕子（絵本講師）

3年前のある日、「今度、この絵本を読むので練習のために聞いて欲しい」と言われ、読み聞かせていただいたのが『ふしぎなともだち』との出会いでした。ページが進んでいくうちに涙が溢れ止まらず、嗚咽してしまうほどでした。「やめようか」と言われたのですが最後まで読んでいただきました。絵本の内容もさることながら、大人になって私だけのために読んでいただいたこと、彼女の優しい声と温かなお人柄が相まって、とても心が揺さぶられました。

この絵本は、島の小学校に転校して来たゆうすけと自閉症のやっくんとのお話です。自閉症は先天的な発達障がいの一つで、クラスに2人程度は発達障がいの傾向のある子どもがいるといわれているそうです。私は発達障がいと診断された子どもや、その傾向のある子どもたちと接する機会があります。ある日、突然に雨が降り始めたことがありました。多くの子どもたちは「傘を持って来ていない」とか「外で遊べない」と口々に言いました。そんな中、発達障がいの傾向のある彼は降り出した雨をじっと見ていました。すると私に「雨が降ってきたね」と言いました。「ほんとだね。雨が降ってきたね」と応えると、またじっと雨を見つめ、「お母さんは困ってないかな」と言いました。低学年でまだまだ自分のことしか考えられない子が多いのに、お母さんを心配する彼の優しさに胸がいっぱいになりました。自分のことはさておき、何よりも他の人のことに思いを馳せられ言葉にできるということは、とても大切な才能です。この時、彼が笑顔でいられない社会をつくってはいけないと強く思いました。

『ふしぎな ともだち』たじま ゆきひこ／作 くもん出版

大人も子どもも発達障がいの方々が生きづらさを感じているといわれていますが、その生きづらさをつくっている社会の方が優しくないのではないかと思います。子どもも大人も生き急がされ、自分のことで精一杯、小さなコミュニティでルールをつくり少しでも外れると除外されてしまう。そんな社会が正常だとはどうしても思えません。発達障がいという言葉は社会的に認識されるようになりましたが、社会の構造は何も変わってはいないように思えます。いじめの問題とも無関係ではないと感じます。誰もがあるがままの自分で、自分らしく生きていける社会であってほしいと思います。そこには障がいの有無など関係ありません。子どもも大人も、時には多くの人から見て間違っていると思われる行いをすることもあるでしょう。その時に周りが支え、受け入れ、折り合いをつけ共に生きていくことが必要なのではないでしょうか。みんな大切な命です。

子どもは夏に成長すると言われます。秋は文化の秋、スポーツの秋、行事も多くさらにたくさんの経験を積んで成長していくことと思います。私は大人として、子ども一人ひとりの伸びやかな成長と満面の笑顔を見守りたいと思います。

（ますたに・ゆうこ）

“たましい”をゆさぶる子どもの本の世界 109

飫肥　糺（批評家・エッセイスト）

からすは嫌われ者ではない

『からすのパンやさん』（偕成社）

月・水・金の週に三日、ぼくが早朝散歩する街路にまっ黒のからすたちがやってくる。これらの日は、燃えるゴミの収集日。この町では生ごみも燃えるゴミに分類され、20筋ほどある路地ごとに集積所がある。

からすたちのねらいは生ゴミ漁り。ゴミは指定のゴミ袋で持ち込まれてナイロン材の丈夫な網がかぶせてある。しかし、もともと知恵があり利口なからすたちはたやすく網をはぎとり獲物を引き出す。ときに網縄まで引きちぎる。なまじ、人間たちが追いはらおうとすれば威嚇してくることもある。街路いっぱいに散らかされるゴミ。かくしてからすは嫌われ者となる。言わずもがなだが、からすは伝承説話などでも、悪魔や魔女の化身となり、夜鳴きが火災や不幸の前ぶれと語られたりして嫌われ者だった。

果たして、からすはまったきの嫌われ者なのか。実は、からすは神話・伝承説話でも太陽の象徴とか神の使いとされることが多い。日本でも古来、神武東征神話に出てくるやたがらすのようにめでたいことが起きるまえぶれのしるしと語られる鳥だったのである。

それでは、『からすのパンやさん』の家族や物語舞台のからすの町いずみがもりのからすたちはどうだろう。ぜひぜひみてほしい。作品では登場するからすのすべてが嫌われ者のまったきの対極者として描かれているではないか。

からすのパンやさん夫婦にみんな異なる色で生まれた四羽の赤ちゃん。お父さんもお母さんもうれしくてたまらない。しかし、子育てはたいへんだ。朝早く起きてせっせと働く両親は思いのままに泣き出したりおなかをすかしたりの赤ちゃんに振りまわされる。しだいに育つにしたがって、いたずら、おねだり、おおさわぎ。……すくすく、のびのび、どんどん育つ子どもたち。それでも、子育てに手抜きなし。その分、パンを焦がしたり、お客を待たしたり…で、仕事はちょっとピンチを迎える。働きながら子育てすることはすごく大変、からす社会だって同じこと。

そんなこんなで、売れない焦げパンや半焼きパンは子どもたちのおやつになって…、これが吉に転じてパン屋さんは町一番の大人気のお店に…というストーリー。人間社会ならイノベーション大成功の見本ということだろうか。

あたたかい、やさしい、ほのぼのとした…、描かれるからす社会のすばらしさは言葉だけでは説明できない。登場するからすたち個々の生きる姿をていねいに描き込んだ作者かこさとしが語りたかった事柄はなんであったか。当今の日本社会とくらべて〝ふーむ、ふーむ〟といった思いが募るではないか。

警察庁の調査によると2017年の殺人事件は895件。内55・5％が家族間の事件だった。今年に入っても実子虐殺、実親殺人が頻発する。家族の実際はどうなっているのか。人びとの働き方の実情はどうか。〝きずな〟とか、〝誠実に、ていねいに…〟などと昨今の為政者たちの言葉はそらぞらしく浮遊するばかりではないか。

戦後の1950年代、宮崎日南地方で学童期をすごしたぼくは、現在の都市でみるからすの群れをみた記憶がない。田畑や山間でみたことはあっても住宅地でみかけることはほとんどなかった。たまに見かけても夕方の空にあのカー鳴きをぼくらに届けて山へと向かうのどかな点景として印象を残す姿だった。

学童期のぼくには、童謡上手な母や祖母がからすが登場する「七つの子」や「夕焼け小焼け」をよく歌ってくれた。

遊び帰りに手をつなぎ歌った。〝夕焼け小焼けで日が暮れて／山のお寺の鐘がなる／おててつないでみなかえろう／からすといっしょにかえりましょう〟（夕焼け小焼け）、わが家族とからすの家族のあたたかみに感じ入ったように思う。〝からす・なぜなくの／からすは山に／かわいい七つの／子があるからよ／かわいい・かわいいと／なくんだよ〟（七つの子）幼いころの情景と歌詞やメロディが生み出す叙情まで、胸を突く想いを失うことはない。ぼくも、からすを嫌われ者にはしていないのだ。

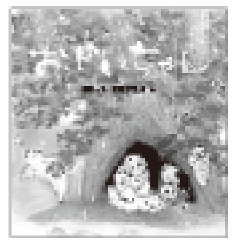
まだ、勤め人であったころ、仕事納めの合図にふたつの歌詞を合成して「七つの子があるからね。からすといっしょにかえるぞ」とよく同僚たちに声を掛けていましたネ。

（おび・ただす）

『からすのパンやさん』かこ さとし＝さく　偕成社

ジェリー・マーティン　英訳
えいごのじかん2 全6巻
分売可：各巻定価（本体1,800円+税）

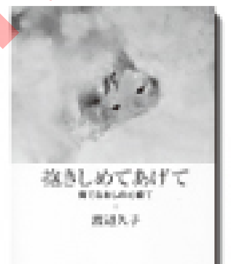
・What's For Snack Today?　きょうの おやつは なんだろな？
・Good Morning, Hedgehog　おはよう はりねずみくん
・Poop　うんこ
・Clouds,Clouds,Clouds,Where Are You From?　くもは どこから？
・The Bean Counting Song　まめの かぞえうた
・Sumo Mice　ねずみの すもう
英語の読み聞かせに最適なバイリンガル絵本。
ネイティブスピーカーによる英文朗読ダウンロードサービス付き。
すずき出版 〒113-0021 [illegible] TEL.03-3945-6613 FAX.03-3945-6616



おじいちゃん
梅田俊作　梅田佳子　作・絵
死ぬってどういうこと？
おじいちゃんが死んだ。家の中でも、家の外でも、おじいちゃんをこんなに近く強く感じるのに、もういないの？ 男の子が思い出の場所までたどりついた時、奇跡が……。大好きな人の死を男の子が受けとめ、前を向いて歩みだすまでを描いた絵本。
ポプラ社
〒160-8565東京都新宿区大京町22-1
TEL03(3357)2212 FAX03(3359)2359

巣づくりの名人
スズメバチ

気性の荒いスズメバチのやさしい表情を詩人の写真家がとらえた。
須田貢正＝さく＋写真
定価：本体1,500円＋税
ISBN978-4-89737-989-0
六耀社 〒135-0091 東京都港区台場2-3-1トレードピア台場19階 T:03-6426-0131(代) F:03-6426-0143 www.rikuyosha.co.jp



抱きしめてあげて
育てなおしの心育て
渡辺久子 著　いわさきちひろ 画
定価 本体1,400円+税
幼児期から思春期にかけての育児の大切なことは「早期教育のできる子」や「行儀のよい子をつくること」ではなく、次の社会で「仲間と仲良くやっていける社会人」や「温かい家庭を築き、よい子育てのできる親」を育てることという小児科医でもある著者がその方法などを30の症例を挙げて助言します！
太陽出版 〒113-0033 東京都文京区本郷4-1-14 TEL.03-3814-0471 FAX.03-3814-2366

シリーズ8年ぶりの新刊！
くろくんとちいさいしろくん

なかや みわ さく・え　定価 本体1,200円＋税
くろくんたちは、迷子になったしろくんに出会います。でも、しろくんの仲間が見つかりません。親切にしてくれたくろくんたちへ、しろくんは画用紙に何かをかいていきました。絵の具を塗ると、そこに浮かび上がったのは……！
童心社 〒112-0011 東京都文京区千石4-6-6 TEL.03-5976-4181 FAX.03-5976-1076

現代の子育て環境106

わたしの絵本体験記

原稿募集

絵本フォーラムでは、次の原稿を募集しています。

・わたしの絵本体験記

子育ての中で体験した絵本のエピソード、読み聞かせで感じたこと、伝えたいこと

600字程度にまとめて、住所・氏名・電話番号・年齢・職業と写真を添えて絵本フォーラム編集部までお送りください。採用分にはNPO法人「絵本で子育て」センター刊行の書籍を進呈し、ホームページにも掲載させていただきます。

絵本フォーラム編集室

ももたろう

高田　美希（東京都杉並区）

わが家の長男が三歳の頃、半年程続くももたろうブームがありました。毎日のように絵本を読んですっかりお話を覚えてしまうと、次はももたろうごっこが始まりました。ちょうど体も思うように動かせるようになってきた頃。そして、かっこいいヒーローへの憧れ！ そんな時期と重なって、ももたろうはとても魅力的だったようです。

私がおばあさん役になり「川で洗濯をしましょ」というと「どんぶらこ〜どんぶらこ〜」と桃になった長男がやってきます。おじいさんのように「おいしそうなももじゃ、きってみよう」というと、「おぎゃーおぎゃー！」と長男が顔をあげ、手を伸ばし桃からうまれます。鬼退治に行くくだりになると当時一歳の次男も参戦！「じゃあ桃次郎だね」と長男と笑いました。「では、おじいさんおばあさん、いってきます」という長男にわざと大げさに「いかないでおくれ〜」と言ってみると、「いや！ どうしても鬼をやっつけるんだ！」ときっぱり言われた時は、我が子ながら逞しさを感じました。また、何度もやるうちに、お供が犬や猿から恐竜になったり、ロボットになったり!!

お話の世界で体と心を自由に使い遊ぶ姿を見ると、ああ、このお話がすっかりこの子のものになったんだなあと感じました。ももたろうごっこで演じた勇気や楽しさや優しさが、心の中に染み込んでいってくれるといいなと願っています。

（たかだ・みき）

ほんとうによいもの

佐藤　香波（栃木県宇都宮市）

私の両親は共働きで忙しかったのですが、父も母も、妹と私を膝の右と左に乗せて、毎日絵本を読み聞かせてくれました。その時の声音、ぬくもり、部屋の匂い、空気のゆらぎ。今でもリアルに思い出すことができます。

そして、私の3人の子ども（大学3、高2、中3）の子育ての時にも、私が読んでもらったセピア色の絵本たちが大活躍しました。私が読み聞かせをしている目の前のわが子が、子どものころの自分自身と重なりました。両親と私とわが子が、時間を超えて、思いを共有しているような不思議な気持ちになったものです。

今では子どもたちもすっかり大きくなり、思春期の真っただ中です。日常の会話は「学校どうだった？」と聞けば「ふつう」とか「まあまあ」とかそっけない返事です。悩みごとを相談してくることもほとんどありません。でも、子どもたちの顔色や声の調子や気配で、「大丈夫なんだな」「がんばってるんだな」「今ちょっとつらいのかな」と感じ取ることができるのです。それは、子どもたちが幼いころから、親子で時間をかけてはぐくんできた「絆」のおかげだと思っています。

「ほんとうによいもの」というのは世代を超えて、10年後も20年後も50年後も、常に新しいものとして、新鮮な感動を与えてくれるものです。

絵本に出会えてよかった。そして、絵本に出会うきっかけを作ってくれた両親に感謝の気持ちでいっぱいです。

（さとう・かなみ）

人生のピンチにはいつも絵本が

青田　宏枝（大阪府池田市）

「おめでとうございます。双子ちゃんですね！」妊娠直後に判明したお腹に宿った二つの命。戸惑いと不安を抱えたまま悪阻地獄に突入し、出産するまでほぼ寝たきりで過ごしました。こんな生活、もう耐えられない。弱音を吐く私に先輩ママがプレゼントしてくれた絵本が『わたしがあなたを選びました』（主婦の友社）です。あまりの体調の悪さに挫けそうな時は何度も読み返し、赤ちゃんも頑張っているのだから私も耐えなきゃと必死で妊娠期を乗り越えました。

待望の我が子に出会えた喜びも束の間、壮絶な双子育児が始まりました。交互に起きるため毎日続く睡眠不足。一人が病気をしたら、もれなくもう片方にも感染し長引く看病、心身共に疲れ切っている時、義姉が贈ってくれた『ちいさなあなたへ』（主婦の友社）を読んで、この大変な時期は永遠ではない。親から巣立つまでは最大限の愛を注ごうと心に決め、何とか乗り越えてきました。

それから4年。息子達は明るくやんちゃな子どもに成長しました。今私が一番幸せに感じる時は寝る前の読み聞かせの時間です。私の両隣りにぴたっと寄り添い、今日は何の本？ と言いながら嬉しそうに寝そべる息子達。真剣な眼差しで聞いたり、二人でけらけらと笑い声をあげたり、そんな姿が愛おしくてたまりません。

辛い時に何度も助けられ、そして息子達とのかけがえのない時間を与えてくれる絵本は私の宝物。これからも親子で絵本の世界を堪能し、共に成長できたらいいなと思います。

（あおた・ひろえ）

絵本講師の発言席

子ども達にこそ絵本を届けたい！

中出　素子（絵本講師）

私は40年以上ラボ・パーティのラボ・テューターをしています。「ことばがこどもの未来をつくる」を合言葉に活動をしてきました。外国語の自然習得をめざしていますが、そのためにはまず「ことば」特に美しい豊かな日本語に触れてもらいたいと、物語を教材にしています。昔話、神話、古典文学、創作物語といろんなジャンルの物語を取り上げています。小1の子が『スサノオ』が好きだったり、小4の子が『15少年漂流記』にのめりこんでいたり、子どもによって大好きなお話はいろいろです。お話は子どもに本当にいろいろな出会いをさせてくれます。それが心を豊かにしてくれるのです。言葉の育っていない人に深い話はできません。まして外国語を駆使することはできません。お話を身体表現することで言葉も社会性も育てているラボの活動。子どもの頃にたくさんの物語に触れることの大切さを日々感じていました。そして、11年前に「絵本で子育て」センター主催の「絵本講師・養成講座」を受講して、これまでの活動にますます自信を深めることができました。

＊　＊　＊

最近「絵本セラピスト」や「絵本セラピー」という言葉を目にするようになり、とても気になっていました。私は「セラピー」を治療、心理療法と捉えていて、心理学を深く学んだ専門家による絵本を使った治療と考えていたからです。数回の研修を受けただけのセラピストの方がそんな心の治療が行えるのだろうかと疑問がありました。また、「大人のための絵本セラピー」という講座が多く見られ、「大人のため」ということにも引っかかっていました。

関心がありましたので、レジュメをいくつも読ませてもらったり、SNSを通じて情報を得たり、関連の本も数冊読んでみました。その結果、「絵本セラピー」には、絵本を通して、絵本作家のメッセージを考え、話し合うことで、自分の心のなかに変化が起こり、それを感じること、特に心の中で前向きな気持ちになれる、という前提があることを知りました。

また、ある本で『生活の中に絵本があって、それを親しむことによって精神的に行き詰まっていたり、病的な状態であったりする心が前向きになる』（『絵本セラピーのすすめ』笹倉剛／著、あいり出版）という言葉に出会い、少し納得しました。「心理学による治療」というより、もっと気楽に『絵本を読んでもらった参加者が日頃感じていることをお互いに話し合い、自らの問題に気づき、自ら解決に向かう」、「大人の心の癒しの場」「大人に絵本のことについて伝える」などを目的としていると理解しました。

＊　＊　＊

でも、絵本が大好きで、長年子ども達に読み聞かせをし、子育て中のお母（父）さん方に「親子で絵本を楽しみましょう」と伝えてきた「絵本で子育て」センターの絵本講師である私は、やはり子どもにこそ絵本を読んであげたいのです。なによりお母（父）さんに幼いころから自分の子どもに絵本を読んであげることの意味の深さを伝えたい。読み聞かせすることで読み手（大人）の心も温かくなったり癒されたりすることを伝えたい。そう強く思いました。

私は、子ども達が絵本で心を揺さぶられ、絵本を通していろんな体験をしながら目を輝かせている様子を見るのが何より嬉しいのです。年齢によっては、子ども達とお互いに話し合うことがあってもいいのかもしれません。絵本を読み終わった後、子ども側から意見や感想が出て盛り上がることもあります。時には関連絵本を紹介したり、作家について話したりすることもあります。絵本を読んだことで、子ども達に勇気がわいてきたり、興味を持つきっかけになったりすることは本当に嬉しいことです。

可愛い子ども達と絵本を通して心を通わせるのが、私にはぴったりくることだなあと改めて思いました。そして、私自身の活動の道がはっきりしました。

（なかで・もとこ）

子どもに絵本を届ける大人の心構え
定価（税込）一〇八〇円
日本図書館協会選定図書　「絵本講師・養成講座」専任講師　藤井勇市／著
「絵本」とは、人間と人間を繋ぐものです
待望の講演録！
絵本とは、いわゆる本の形をしたものだけをいうのではありません。育った村の風のそよぎ、木々のゆらぎ、雲の流れ、おばあちゃんのあたたかなお話、おふくろの忙しく立ち働く姿、それらすべてが私にとっての絵本です。そういうものが人間と人間をつなぐ「絵本」ではないでしょうか。そういうたくさんのものを心と身体全体で吸収して、子どもたちが本当の意味での「大人」に育っていくのです。（本文より）
目次より（抜粋）
●子どもたちに絵本を届けたいと思う人とともに考えたいこと
・中川正文先生の思い出・現代日本の情報空間＝マスメディアの問題・三つの「ない」社会で生きる子どもたち・「早期教育」の大きな過ち・子ども（たち）に絵本を届ける大人の考え方
●団塊おじさんが子育て世代に小声で伝えておきたいこと
・こころのなかに流れる「物語」・大人としての自分自身を見つめる　その他
●2011年3・11以後―日々断簡
・自然災害が「人災」になるとき・ほんとうの「ゆたかさ」を求めて　その他
絶賛発売中

ISBN979-4-903607-14-6 C0037
NPO法人「絵本で子育て」センター
〒659-0067 芦屋市茶屋之町2-21-405　TEL.0797-38-7516　FAX 0797-38-7939

(C)NPO法人「絵本で子育て」センター

土居安子の おすすめ絵本

（大阪国際児童文学振興財団・総括専門員）

（どい・やすこ）

● このいえも むかしは

ジュリー・フォリアーノ／文　レイン・スミス／絵
青山南／訳　ＢＬ出版

二人の男の子が森の奥にある誰も住んでいない家をこっそり訪ねます。もとは白いペンキがぬられていたドアを開けると、写真や絵があって、台所にはピンがあります。二人はここには誰が住んでいたのか、なぜ、出ていってしまったのかを想像します。さまざまな色が重ねられてできた家の中の風景は、二人の少年の想像の広がりを描くと同時に、古い家の息遣いを感じさせてくれます。（税込価格 1728 円）

● この計画はひみつです

ジョナ・ウィンター／文　ジャネット・ウィンター／絵
さくまゆみこ／訳　鈴木出版

砂ばくにあった小さな学校が政府から立ち退き命令を受け、そこに世界から優秀な科学者がやってきました。そして、そこでは、＜ガジェット（小さな装置）＞という名前で呼ばれる秘密のものを作っていました。科学者たちの生活を支えるために、料理やそうじや見はりをする人たちもやってきましたが、働いている場所のことは秘密にするようにと言われました。第二次世界大戦中のアメリカを舞台にしたノンフィクション絵本。（税込価格 1620 円）

● みえるとか みえないとか

ヨシタケシンスケ／さく　伊藤亜紗／そうだん
アリス館

「みえる」「みえない」とは何だろうという疑問から始まって、自分らしさや人との違いを考えさせてくれる絵本。「ぼく」は、目が3つあって前も後ろも見える宇宙人に出会って、後ろが見えないのはかわいそうだと言われます。また、宇宙には、足の長い人や空を飛べる人、体がやわらかい人などがいると聞いて、「ぼく」が思っていた「ふつう」って何かなと考え始めます。そして、自分と違う人と語ることによって理解できることを知ります。（税込価格 1512円）

第15期「絵本講師・養成講座」リポート　2018.08.18

絵本の力を感じ学んだ日

報告・多本 ゆき枝

第15期「絵本講師・養成講座」大阪会場第3講が2018年8月18日（土）、CIVI研修センター新大阪東に於いて開催されました。夏休み期間のためか欠席者がいつもより多いものの、会場には受講生の笑顔があふれ、熊懐賀代さん（芦屋4期）の司会で講座が始まりました。

＊　＊　＊

午前は、飫肥糺先生の講演「こんな絵本を読み語りたい」です。ロングセラーの絵本はテーマが明確で普遍性があり、絵と文とが融合してメッセージを発している。絵も文も個性を持ち、読み手聞き手を誘い込む力があるもの、そして、子どもへの深い理解と愛情が感じとれる絵本がいい。何を言いたいのか分からないものは子ども向けの絵本ではない、と話されました。

ご自身で翻訳された絵本『平和って、どんなこと？』（ウォーレス・エドワーズ／さく、おびただす／やく、六耀社）と、今年の沖縄全戦没者追悼式で朗読された中学3年生の相良倫子さんの平和の詩「生きる」を紹介され、いま、自分さえ良ければいい、と多くの人が考え、世界中いつでもどこでも人が殺されている。本当に平和な時には平和は叫ばれないだろう。いまの日本はどうなのか？　果たして世界は一つになり得るのか？　と問いかけられました。会場にいる一人ひとりが平和について静かに想いを巡らせた時間でした。

＊　＊　＊

午後は、吉井康文先生の講演「絵本の可能性」です。まず『あたごの浦　讃岐のおはなし』（脇和子・脇明子／再話、大道あや／画、福音館書店）を、続いてこれによく似た話がある、と『また もりへ』（マリー・ホール・エッツ／ぶん・え、まさき・るりこ／やく、福音館書店）を読んでくださいました。前作の『もりのなか』と共にエッツの文と絵について詳しく解説しながら、いかに作者が子どものことをよく分かって描いているか、いかに多くのことを考えて絵本を制作したのかを示されました。絵本は絵を読むと見えてくることがたくさんある。私たちは残していきたい力のある絵本を見極めなければいけない、と語られました。

また、ハンディキャップをもつ人が主人公の絵本や、ハンディキャップをもつ人が描く絵本、障害の有る無しに関係なく楽しめる絵本についても紹介されました。個性や違いを認めること、自分が自分であっていいと語る絵本も、是非、子ども達と一緒に読みたいと思いました。

＊　＊　＊

グループワークに入る前に、大長咲子副理事長から絵本講師とボランティアとの違い、著作権のこと、サプリメントのデータについての説明がありました。続いて藤井勇市専任講師からは、いまの日本は何も考えず自分のことしか考えないディストピア（暗黒郷）であり、リテラシーをなくした社会になっている。学力とは学ぼうとする力・問題を解決しようとする力であり、記憶力や暗記力とは違う、というお話がありました。

多くの学びに飽和状態となりながらも、グループでは活発な話し合いがもたれていました。共に学ぶ喜びにあふれた一日でした。（たもと・ゆきえ）

わたしの子育て

其の二

ゆっくりな娘に たくさんの言葉がけ

ダウン症をもつ娘のことば育ち

多本 ゆき枝（絵本講師）

ダウン症の診断を、夫と私の両親は驚きつつも取り乱すことなく受け止めてくれ、変わらず娘を可愛がってくれました。私は俄か仕込みの知識を披露し、何とかなると伝えました。

夫の兄からは、すぐに地元の親の会に入るようにとアドバイスがありました。実は、義兄は特別支援学校の教員で、一人息子は高機能自閉症をもっています。息子を小学校から普通学級で学ばせ、進級するたびに夫婦で学校へ出向き、問題が起きるたびに義姉が呼び出され、何度も先生方と話し合いをしていたようです。新米ママの私にとって心強いアドバイザーがすぐ近くにいてくれて幸運でした。

そして義兄は、孫二人ともが障害児だと悲しむ義母に「この子らはかわいそうではない、ありのままを見て可愛がってくれたらいい」と諭してくれました。

家族からダウン症について否定的な言葉をかけられることなく、私は娘の子育てに専念できました。それどころか二人の母から折に触れ、「しっかり育ててくれてありがとう」と感謝の言葉をもらっています。本当にありがたいことです。

最初、娘の授乳には健常児の倍以上の時間がかかりました。ダウン症児は筋力が弱いため吸う力が弱いのです。片方のおっぱいを飲んでは眠り、しばらくすると起きてもう片方を飲んでまた眠る。そんな娘につき合って一生懸命に授乳しました。そのかいあって、ミルクに頼ることなく母乳だけで育てることができました。

離乳食の進み方もゆっくりでした。摂食指導の先生に診てもらいながら、1年以上かかりました。おっぱいを吸ったり離乳食を食べたりというのは口周りや舌の使い方の訓練になります。いま10歳の娘の滑舌はダウン症児にしては珍しく良好で、周りの人とストレスなく会話できていますが、焦らず娘のペースに合わせて授乳や離乳食に時間をかけたことが良かったのかもしれません。

娘は生後2ヶ月になると、目を合わせて微笑むようになりました。キャッキャと声を上げて笑ったり、アーとかウーとか声を出したりもしました。満面の笑みをうかべる娘は本当に愛らしく、私の心を暖かくしてくれました。

娘の言葉を育てるのに何が良いのか、探しました。ダウン症があっても四年制大学の英文学科を卒業された岩元綾さんのご両親の著書を読むと、たくさん話しかけるのが良い、それも正しい日本語の文章で、とあります。そこで例えば、洗濯物を干す前には「今からベランダで洗濯物を干してきます。待っててね」と声かけし、終われば「お母さんは洗濯物を干してきましたよ」と話しました。娘を抱いて部屋の中を見せながら「食器棚の中にお皿がいっぱいありますね。コップもありますね」「本棚の中にはお父さんの本がたくさんあります」などと実況中継もしました。外出中もベビーカーに乗った娘の耳元で「電車に乗って〇〇へ行くんだよ」「電車が来たから乗ります」などと語りかけました。

授乳するのも話しかけながらです。これはずいぶん大きくなってからのことですが、休日に授乳しながら夫の方を向いて会話していると、娘がギューっと乳首を噛んだことがありました。まるで「よそ見をしないで私を見てちょうだい」と言っているよう。慌てて「ごめんごめん」と謝って娘に視線を戻しました。

童謡も歌いました。娘はじっと私の口を見て聞いていました。テレビはなるべく点けず、家事でそばを離れる時には童謡のCDを流しました。寝る時には娘の背中をトントンしながら歌いました。

生後5ヶ月になって、そろそろ絵本を読んでみようと『ちいさなうさこちゃん』（ディック・ブルーナ／ぶん・え、石井桃子／やく、福音館書店）など数冊を買いました。まだおすわりができなかったので、親子で仰向けになっての読み聞かせです。娘はじっと絵を見て聞いてくれました。興味津々で集中して絵を見ている娘の様子に、絵本が分かっている！　賢い！　と嬉しくなりました。ゆっくりでも着実に成長していたのです。（たもと・ゆきえ）

――今も昔も変わらない、大切なココロを再確認できる一冊――
森ゆり子講演録　改訂版
絵本を読んであげましょう
子どもたちは、じっと私たち大人の行動をみつめています
絵本の内容は覚えていなくても、読んでもらったという心地よい記憶は胸の奥深く残ります
経済はひとむかし前と比べますと驚くほど成長しました。生活の利便はあらゆる局面に広がりました。物質的なゆたかさは大いに結構です。でもほんとうは、それ以前に考えなければいけない、もっとたいせつなものがあるのではないでしょうか。
乳幼児期の子どもにとって、最も身近な存在である親とふれ合うことは、これから人生を生きていくうえでとてもたいせつなことなのです。（中略）子どもたちのこころを育てるのは、決して〈モノ〉や無機質な〈情報〉ではありません。こころを育てられるのは"こころ"だけなのです。（本文より）
絵本で子育て叢書003
税込価格　1234円
NPO法人「絵本で子育て」センター　〒659-0067 芦屋市茶屋之町2-21-405　TEL 0797-38-7516　FAX 0797-38-7939

子育ての現場から 6

子どもが地域の中で育ち、さまざまな経験ができるきっかけになるように

北 素子

わたしは、子育て支援のNPOの運営に携わっており、事業の一つとして、地域子育て支援センターの受託運営をしています。地域子育て支援センター（地域子育て支援拠点事業）は、地域における子育て家庭を支える国の取組みとして、1993年度に始まりました。市町村が実施主体として認めた団体等に運営委託する形をとっており、0歳から就学前の子どもと保護者が無料で利用できる場として、全国に7259か所（平成29年時点）あります。「子育て中の親子の交流促進」「子育てに関する相談・援助」「地域の子育て関連情報提供」「子育てや子育て支援に関する講習」を行い、地域の支えあいと子育て力の向上をはかることを目的としています。

こういった子育て支援の場や機会が年々増えていることや、ワーク・ライフ・バランス、待機児童解消、育児休業期間の延長、就学前教育の無償化などの近年の動向をみると、子育てを取り巻く環境は整備され子育ての負担も軽減しているのでは？　と思われるかもしれません。しかし、三間（時間、空間、仲間）の確保が難しい社会において、子育て中の親の孤独感や負担感は、減少どころか増大しているのが現実です。

わたしたちが運営するセンターを利用する保護者の大半が核家族で、実家も遠く、夫は朝早くから夜遅くまで不在、身近に頼る人がいないという「母親」です。最近では「父親」「祖母」「ベビーシッター」が子どもを連れてくるケースも増えてきました。

子どもの年齢は、0歳から3歳が全体の9割。保護者からの相談内容もさまざまです。授乳、離乳食、睡眠、身体の発達（発育、言葉など）、心の発達（イヤイヤ期、赤ちゃん返りなど）、子どもの性格（乱暴、消極的など）、子どもとの関わり方、母体の健康、保育園や幼稚園、家族（子育ての方針、家事分担、実父母や義父母との関係）、仕事……などこれらの利用者の課題解決に寄り添うよう心がけています。

絵本の質問や相談も多く、絵本の紹介や、有用性についてお話をしています。ある1歳児のお母さんから、「絵本を読むのは面倒で好きじゃない」とはっきり言われたことがあります。母子関係も良好ですが、ママは子どもと二人きりで過ごす生活に疲れていて、大人との会話を目的にセンターを利用しています。子どもはママに絵本やおもちゃを差し出してねだりますが、おしゃべりの片手間に相手をする程度です。そこで私が絵本を読むことにしました。その子はママの背中越しに、私の顔と絵本を交互に見ながら様子をうかがっていましたが、日を重ねるごとに、私を見ると本棚から絵本を持ってきて、膝に座るようになりました。次から次へと持ってくる絵本を読んでいるうちに、その子の好みもわかってきて、秘密を共有しているかのような心の通いあいを楽しんでいました。そんな私たちを見て、「この子楽しそうですね。私も読んでみようかな」とママがおっしゃいました。今では、寝る前に絵本を読むことが習慣となっているそうで、普段のママの会話にもポジティブな言葉が多くなってきています。

親が気づかない子どもの長所を伝えてあげると、子どもを見る親の目線や対応も変わります。その親の子育ての良いところに気づいてあげると、子育てへの自信にもつながります。子どもの育ちには、家族以外のさまざまな人との触れ合いや、自然やものとの関わりが大切です。

この活動をして約10年。子育てを支援しているつもりが、自分が支援されていることに気づきます。社会はお互いさまの関係でできています。ナナメの関係の場づくりを大事にしながら、子どもが地域の中で育ち、さまざまな経験ができるきっかけになるような支援をしていきたいと思います。（きた・もとこ）

ジェリーの ⑥ 日本見聞録

JERRY MARTIN'S JAPANESE MEMOIRS

人生の説明書

昔話は不思議なものです。名前の通り、昔からあるお話ですが現代の私たちにも響くものがあります。私は子どもの頃、語り部の方々が小学校に来てくれることをとても楽しみにしていましたし、自分でも昔話をたくさん読みましたが、一歩ずつ大人の階段を登るにつれて、昔話の世界から遠ざかってしまったような気がします。「絵本講師・養成講座」を受講している時に最後のリポートを書くためにたくさんの昔話を読みました。私の昔話に対するイメージを変えたのは小澤俊夫先生の『働くお父さんのための昔話入門』でした。名前がとても長い本ですが、伝えたいことは簡単です。昔話は現代にも十分通じるし、もっと身近なものであるべきだということです。

小学生の頃、学校に来てくれる語り部の中にネイティブアメリカンの方もいました。子どもたちがネイティブアメリカンの文化をもっと知るためにネイティブアメリカンの昔話を語ってくれました。別の語り部や劇団グループもよく来てくれましたが、私はこのネイティブアメリカンの語り部の方が一番好きでした。音楽もなし、大げさな事もなく、マイクも使わず、はっきりした生の声の語りでした。その方のおかげで『たいようへとぶや』という話に出会いました。その方は毎回この話をしてくれました。私はこの絵本版があることを知らなかったのですが、「絵本講師・養成講座」の講義の中で再会し、とても不思議な感じがしました。小澤先生の本とこの絵本のおかげで私はまた昔話の世界に戻ることができました。

養成講座を卒業して、小澤先生の本の虜になってしまいました。民話、昔話、伝説、神話の違いから、3回くり返すことの大切さまでスポンジのように吸収しました。小澤先生の「むかしばなし大学」が東京に来た時には迷わず入学し、3年間昔話について深く勉強しました。語り部の方、昔話好きの方、小澤先生のファンの方、色んな方々と一緒に勉強しました。昔話の文法からグリム兄弟まで幅広く、たくさん勉強しました。卒業した時、私の昔話についてのスタンスはすごく変わりました。昔話はただの面白い話ではなく、人生の説明書なのだと気づきました。

お年寄りを敬う、動物に優しくする、人の話をちゃんと聞く事の大切さなどを昔話から学ぶ事ができます。人生に役に立つ事を子どもに教えるのはなかなか難しいと思いますが、ジャーナリストのむのたけじ氏が養成講座の講演の時にこう言いました。「学びにおいて、誰かの真似をすることも必要です」。人から真似る事もできますし、物語から真似る事もできると思います。なので、昔話や絵本、また、語り部から……様々な方法で、子どもにたくさんの物語を届ける事が大切だと思います。

また、リテラシー（読解記述力）の専門家メム・フォックス氏の話によると、一般的に子どもは一人で読めるようになるまでにおよそ1000もの物語を聞く必要があるそうです。そうすることで母国語に必要な音を全部学ぶことができ、同時に家族間の絆を築くためのコミュニケーションの時間にもなります。

人間社会はだんだん便利になるにしたがって言葉の量が少なくなっている気がします。テレビやゲームの時間が増えると、目を合わせながらのコミュニケーションの時間が減ります。コミュニケーションが足りなくなると先ほどリストアップした人生に役に立つ事（お年寄りを敬う、動物に優しくする、人の話をちゃんと聞くなど）が伝わらなくなってしまいます。最近、昔話を知らない未成年者が犯罪を起こした後に「なぜ罪を犯してしまったか」という問いに対して、「何が起こるか知りたかった」という返事が返ってきたそうです。普通に考えると想像は出来ると思います。昔話をあまり知らないから想像出来ないのでしょうか？　この子どもたちのリハビリの中に、昔話を読む授業があるそうです。

昔話の説明書はとてもいいものですが、ただテーブルの上に置くのではなく、子どもと一緒に読むということが一番大事です。この説明書と共にたくさんの人たちとコミュニケーションをとり、子どもたちが真似をしても恥ずかしくないように、私たち大人は頑張らないといけないと思います。（ジェリー・マーティン）

遠い世界への窓 IX

物語の中へつれていってくれたり、大切なものに気付かせてくれたり、クスッと笑わせてくれたり……絵本は、いろんな世界への扉になってくれますね。そして、遠い国々に住む人たちの日々の暮らしやワクワクをながめることのできる「窓」にもなってくれるのです。

前田君江
東京大学教養学部非常勤講師
絵本翻訳者

『商人とオウム ペルシャのおはなし』

『商人とオウム ペルシャのおはなし』（ミーナ・ジャバアービン／文、ブルース・ホワイトリー／絵、青山南／訳、光村教育図書）

『商人とオウム』の主人公は、表紙にも描かれている色鮮やかなオウム。頭と体は、オレンジがかった赤色で、羽の先は黄色、そして、長い尾は、目の覚めるようなペルシアン・ブルーです。オウムは、優雅に暮らしていました。飼い主のお金持ちの商人の店は、色とりどりのタイルに囲まれていて、オウムはその店の中で、ぶらんこが三つもついた、大きな金色のかごに住んでいたのです。

オウムは美しいだけでなく、すてきな歌声で歌うことも、人間の言葉を話すこともできました。豪華な金色のかごも、外国から来た商人たちにオウムが声をかけて、店の商品を丸ごと買い上げてもらったご褒美でした。

でも、オウムは幸せではありませんでした。ふるさとのインドの森で、むかしのように自由に飛び回りたい、といつも思っていました。

あるとき、商人がインドへ出かけることになりました。妻と娘に素晴らしいお土産を約束した商人は、オウムにも何が欲しいかと尋ねます。オウムは答えました。「森で、わたしみたいなオウムが自由にとんでいるのをみたら、つたえてくださいな。わたしはとおいところにいるが、みんなといっしょにもういちどとびたい」と。

『商人とオウム』は、この絵本の作者ミーナ・ジャバアービンが生まれたイランの公用語ペルシア語で書かれた有名な古典詩に出てくるお話です。ペルシア語でも『商人とオウム』の絵本はいくつも出版されていますが、ペルシア語を話す人々にとって、このお話は、何よりも詩で語り継がれてきた物語なのです。だからこそ、むしろ遠く離れたアメリカで、鮮やかに彩られた絵本に生まれ変わったのかもしれません。現在はカリフォルニアで暮らす原作者のミーナは、やはりペルシア語の古典詩にうたわれたお話『くらやみのゾウ――ペルシャのふるい詩から――』（ユージン・イェルチン／絵、山口文生／訳、評論社）も書いています。

さて、インドを訪れた商人は、オウムからの伝言を、森に住むオウムたちに伝え、金色のかごのことも話してやりました。その言葉をじっと聞いていたオウムたちの一羽が、突然すとんと、木の枝から落ちました。それにつづいて、仲間のオウムたちも、次から次へと枝から落ちると、みな足を空に向けて地面にころがったまま、ぴくりともしなくなったのです。

ペルシア語古典詩の原作では、ただ一羽のオウムが枝から落ちて動かなくなったと、そして、商人はその様子にひどく心を痛めたと書かれています。でも、この絵本では、濃い緑のうえに、色鮮やかなオウムたちが何羽も横たわっている絵に目を奪われます。なぜオウムたちは、枝から落ちて動かなくなってしまったのでしょうか。そして、このことを商人の口から聞いた、金色のかごに住むオウムは、何を思ったでしょうか。オウムは、インドの森へ帰ることができたのでしょうか。

絵本のさいごに、商人が店を構えるバーザール（バザール）の天井穴が描かれています。伝統的なバーザールは、無数のドームがつながった屋根に覆われた通路が縦横無尽にはりめぐらされています。各ドームの天井部には、穴が開けられ、雨風をしのぎながらも光をうまく取り入れる合理的な建築構造をもっています。

現在、原作者ミーナのふるさとであるイランは、トランプ大統領の経済制裁強化を受けた経済不安に見舞われています。これに端を発したストライキの中心のひとつが、バーザールです。インドのオウムはいないかもしれませんが、経済の中枢として今なお大きな力をもっているのです。（まえだ・きみえ）

季節とともに生きよう　絵本とともに生きよう　子どもたちに思いを届けよう
絵本講師の本棚から
絵本って、自分自身では何もできない
本屋さんで、また図書館で、誰かが本物の絵本を手にとって表紙を開いたときに、初めて画家が全力で描き上げた絵が動きだします。誰かが声に出して読んで、初めて作家の思いが詰まった言葉が歌を歌いだします。その誰かが絵本を読むときに、相手がいて、読み手と聴き手が共に楽しい時間を過ごして初めて、絵本は生き生きと本当の姿を見せるのです。
NPO法人「絵本で子育て」センター
絵本講師・井下陽子
三部作完結！
絵本講師の本棚から　続 絵本講師の本棚から　続々 絵本講師の本棚から
33人×3（99人）の心の奥に残っている絵本たちを紹介します
定価　各（1400円＋税）
NPO法人「絵本で子育て」センター　〒659-0067 芦屋市茶屋之町2-21-405　TEL 0797-38-7516　FAX 0797-38-7939

(C)NPO法人「絵本で子育て」センター